



# 横浜陶芸友の会だより

第 142 号

平成 22 年

4 月 1 日発行

## 「第三十一回 作品展」の事業報告

会員皆様方のご協力をおもちゃまして、「第 31 回作品展」も無事、盛況のうちに終了することができました。ありがとうございます。

この作品展は、会員の研修の場でもありません。「この釉薬は何?」「どうすればこのように作れるの?」「色々な疑問に教えたり教わったりすることが次の作品作りの糧となります。自分の作品を出すことで、更なる意欲につながります。

**会期** 平成 22 年 1 月 12 日(火)～18(月)  
**会場** 横浜市民ギャラリー 1 階展示場  
**入場者数** 1983 名・昨年より 500 名の減。  
**出品者数** 54 名  
**養護・特別支援学校** 4 校

小・中学校などの出展希望があれば一報ください。  
聖坂養護学校・本郷特別支援学校・上菅田特別支援学校・日野中央高等特別支援

学校

**出品点数** 404 点(特設コーナー「マガカップ」34 点と養護・特別支援学校生徒作品を含む)

グアカップ」34 点と養護・特別支援学校生徒作品を含む)

昨年度より大物や作品出展数が少なく会場はゆったりしていました。

**懇親会参加者数** 25 名

「ホテル・横浜ガーデン」にて

**当番人数** 以下の表は責任者 2 名以外の当番人数です

作品申し込みの時と搬入当日に、当番のお願いしましたが表のように少ない人数でした。入り口と奥の 2 箇所での入場者のカウントや作品の盗難防止など大事な仕事で、最低でも 4 人必要です。人数が少ないと食事にも出られなくなります。

ぜひ、出展された方は、会期中に半日でもよろしいのでお手伝いをお願いします。

12日 (火)	13日 (水)	14日 (木)	15日 (金)	16日 (土)	17日 (日)	18日 (月)
5名	4名	4名	3名	5名	4名	2名
6名	3名	2名	5名	2名	3名	5名

### 特設コーナー

来年度の課題は「豆皿」3 枚以下です。「豆皿」と普通の「皿」どちがちがうの? 調べてみてください。楽しい作品がたくさん出てくることを期待しています。

### その他

出展料は、会を運営するための賛助会費です。一度作品を並べてみてから余裕の幅を決めてください。



最終的に、見栄えをよくするために調整はしているのですが、それを見越してギリギリではなくあと 1 区画多くして余裕を持っていたらと調整も楽になります。よろしく願いいたします。

今年度、出展を予定していたのに怪我や体調不良のため搬入ができなくなった方が何名かいらっしゃいました。寒い時期でもあり体調には気をつけましょう。

作品展を見て感じたこと

大日方 毅

今年も見ごたえのある作品が揃いました。この作品展は、私にとって会員同士の親睦を深めると同時に、前年に作った作品を展示することで、会員の皆様からご意見を頂ける大切な勉強の場であり、気持ちも新たに今年も作陶しようという励みの場にもなっています。何年か前の作品展のときに、ある会員の方から「大壺は肩の張り方が生命だよ。他の作品と比べてごらん。そこに注目して作品を作っていくといい作品が出来るよ」とアドバイス頂きました。今でもその言葉を大切に作陶しています。

さて今年の作品展は、作品点数が例年より少なかつたものの、結果としてはそこにスベースが生まれ、各作品の持ち味が際立ち、全体として落着きのある雰囲気が生まれたように感じました。例年見に来て下さる私の知人からも「今年の作品展は見やすかつたよ。そして思わずこの器を使ってみたい、自分の家に置いてみたい、そういう作品が多かつた」との言葉を頂きました。この言葉は、陶芸をする上で私の心情と重なるものがありました。というのも、作陶する前はこんな場面で使え



く励みになる言葉でした。

最後になりましたが、事業部をはじめ、この作品展の準備にご尽力頂きました皆様に、心からお礼申し上げます。

初めて作品展に参加して

逢阪 博樹



昨年(21年)に入会させていただきました逢阪博樹と申します。今回で31回を数える伝統と歴史のある会の作品発表会に、拙い作品を出させて頂きました。年末に申込、年明けに本焼きする等バタバタの連続でどうにか搬入日に間に合ったという次第です。私は陶芸を始めて、まだ掛け出し者も良い所で、道具の扱い方、作り方はおろか菊練りも十分に出来ない新米です。作品展では、どうすればあんな色が出せるの?どうしたらあんなに真直ぐなものができるの?あんな複雑な形はどうやって作ったの?あんな大物を作るなんてす

る器を作ってみたくてイメージし、作陶している間は日常を忘れ夢中になり、そして出来上がった後は使う楽しみが生まれる、そんな想いと重なっているからです。まさにこの知人の一言はとても嬉し

毎回勉強の作品展

井上 明

今年も、たくさんさんのやきものに出会うことができました。愛らしい人形、端正な絵付、練込作品、追求された色々な釉薬、そして焼締作品、どれを拝見しても力作ぞろいです。昨年(20年)の作品展は30回記念ということで、会場あふれんばかりの作品でしたが、今年はある意味、量的には



ごいなあー。と驚きの連続でベテランの方々の名作・力作に出会い感激しました。そんな中ある先輩からは、釉薬の掛け方、道具土の使い方、織部釉の曇りの取り方。作品のアイデア、取組姿勢、活動状況など多くの助言アドバイス頂きました。これらの貴重



# 陶陶さん

第 64 号  
あかほし



ちよつど良いスペースだったように思います。出展者と出展作品を見て気付くことは、毎年違った傾向の作品に、常にチャレンジしている方、また同系統のやきものを追求して、毎年さらに上を目指している方に二分されるような気がします。いずれにしても、毎回大変勉強になりますし、「よし今年は・・・」といういいスタートがきれる作品展です。

私は毎年、穴窯で出来る焼締主体となりませんが、信楽、志野に続いて、4 年ほど前から備前焼に挑戦しています。本来 2 週間〜3 週間で焼き上げるのを、5 日間という短い時間で焼き上げているため、毎回勉強で窯出しのたび不安でいっぱいです。失敗を繰り返しながらも何となく目指すものに近づいて来ているような気がします。その失敗から得られることが重要で、色々な窯の焚き方、特に窯焚の終了時の大切さなどずいぶん勉強になりました。いつも、思い通り出来ないのがやきもの面白さであり、その難しさゆえ、やめられないのかもしれない。



## 懇親会に参加して

来年も多くの力作に会えることを楽しみに！

作品展会場から近くのホテル横浜ガーデン六階で、円卓を囲んでの中華料理でした。陶芸経験の豊かな皆さんのテーブルに仲間入りしての陶芸談義!!! 井上さんの、これから旬になる春の山菜を盛り付けたら映えそうな黒い備前は、釜の中の置く場所によって色が異なる事や 吉良さんの深みのある緑は専修部の織部釉である事、



(4 頁に続く)

## 作品の数々



富永さんのシルバー・黒・ブルーの結晶釉はある程度の厚みがないと壊れてしまうそう（釉薬が器を壊す・・・とか）、光の具合で色が変わるところを見て貰おうと水を入れて置いたところ、裏を見たい人が水に気付かず、ひっくり返してしまった・・・と言う事が何回か有ったようです。張り紙の「水が入っています」は必要だった等々談義は尽きません。

元会長の高村さんが九州宮崎から送って下さった自ら手作りの瓶入り焼酎もご馳走になりました。杜氏をしていらつしやるようで同封のパンフレットに仕事中の逞しい姿の写真が載っていました。口当たりの良い美味しい焼酎でした。

友の会に入れて頂いてから年数だけは経っているものの、土・釉薬・温度との関係等知らない事がまだまだ沢山ある私にとって、とても楽しい2時間でした。

**役員会だより**



2月13日冷たい雨のなか、20名の役員が出席して、開催されました。

各委員会の事業報告やら経費の報告がありました。また作品展（役員として）の反省もでて、来年度の課題になりました。

九谷の先生の展示会が都内で開催された折

**平成 22 年友の会総会**

下記のとおり今年も総会が開催されます。会員の皆様には自分たちの会だとの認識を持って役員任せでなくぜひ参加を!!

記

日程 平成 22 年 5 月 1 5 日午後 3 時～  
 場所 京浜急行杉田駅京急プララ 4F 杉田地区センター  
 JR 新杉田下車徒歩 5 分  
 議題 21 年度事業・会計・監査報告  
 22 年度事業計画・予算案 その他

**平成 22 年度新入会者名簿**

石川 美枝子  
 鈴木 早苗  
 沢田 幸男  
 中崎 孝

に「上絵の具を購入された方が沢山いたようだが、使い方の講習会を開きましょか」と声をかけて頂いたそうです。先生への講習料も安くはないのでどれくらいの反応があるのか思案中です。参加したい方がいらしたら是非、総会に出席して御意見を頂ければと、役員一同お待ちしております。

**編集後記**

陶芸を続けられるのは、人様に見て戴くのが励みになると、つくづく思います。年明けの作品展が盛況に続くことを願っております。

役員の皆様のご理解を得て、少し予算オーバーでしたが、作品展の報告号がカラー化出来ました。感謝感謝  
 吉良

いつかはカラーをと 広報を受けてから六年間ずっと夢見てきたことが叶いました。『バンザイ!』今回はパソコン構成にも参加して すっかり広報誌作りにはまりました。とても楽しい時間を（実はかなりの悪戦苦闘でしたが・・・）過ごしました。  
 小松

パソコン画面の広報誌はカラフルで綺麗です。このままの色を少しでも残してお届けしたいと思っております。カラーページにさせていただけると嬉しいです。  
 信岡

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://home.f07.itscom.net/tomokai/index.html>

**横浜陶芸友の会だより  
 第 1 4 2 号**

(平成 22 年 4 月 1 日発行)  
 発行人 横浜陶芸友の会  
 会長 出淵信江子

編集責任者 広報部長 吉良謙